

めだかの学校たより

平成 28 年 11 月 1 日
 第 94 号
 学舎：周智郡森町一宮
 「一宮総合センター」
 事務局：静岡県磐田市
 家田 529-20
 TEL: 0539-62-6691

校長訓話

第九十四回 校長 大久保 陽

高齢者の交通事故 体験談

めだかの学校も開校以来 20 余年になり、自分も含め高齢者の方が多く在籍していると思います。

先日の中日新聞の記事ですが、昨年の愛知県の交通事故者のうち 65 歳以上が全体の 6 割近くを占めているとの事です。愛知県は特に事故が多いようですが、記事をそのまま記載します。高齢者の交通事故死者を当事者別に見てみると、歩行者の死亡事故が全体の 5 割と最も多く、道路横断中が 7 割を占めています。

自分も 3 年前の 11 月に事故に逢いました。磐田市内で薄暮の時間帯に幹線道路を横断歩道でない所を横断しました。左右を見て、安全を確認して渡ったはずだったのですが、渡り終わ

る直前に 1.5 トントラックにはね飛ばされてしまいました。

その瞬間から応急処置が終わるまで全く記憶がありません。コンビニの前の事故だったので、店員さんが救急車を呼んで下さり、隊員の適切な対応により今こうして命を繋いでいます。

警察へ提出した診断書の病名は「外傷性腎動脈損傷、左肋骨多発骨折、全身打撲」外部出血、内出血が多く左半身は濃い紫色で、消えるまで 1 ヶ月上かかりました。この事故で恵まれていたのは、トラックのスピードがあまり出していなかった事、時間外でしたが担当してくれたドクターが血管外科の専門医だった事です。

輸血・点滴は 3 日間で、トイレには行けず尿管でした、食事が出来たのは 4 日目からで、それは美味しかったです。入院は思ったより短く 11 日間で済みました。リハビリは 2 ヶ月以上通院しました。

退院後は警察の事故担当の警察官が調書を取りに見えました。その方は「大久保さんが今生きているのは奇跡ですよ」、運が良かったとしか思えません。後遺症は殆どありませんが、体力がおちました。オープンガーデンの庭仕事でスコップを使つての耕し作業をしますと 3 分位で息が上がってしまいます。

これから冬に向かい日暮れが早くなり、夕方から夜にかけての事故が日中の倍以上あるそうです。なるべく暗い中での運転、散歩は避けましょう。



「自宅オープンガーデンのホワイト・ハウスにて」

めだかの学校伝言板

——第 94 回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

- 校長／大久保 陽
- 教頭／西川裕子
- 用務員／加藤真知子
- 給食係／大久保陽・村木謙之・石野省三・田村進治
 伊藤英雄・中村やす代・牧野久子・西川裕子
 池田タキ江・加藤ひとみ・大谷香代子
 渡辺三ツ子(チーフ)

※お手伝いできる人はぜひ早めにお出掛けを！

<学舎>静岡県周智郡森町一宮「一宮総合センター」
 TEL: 0538-89-7730(開校日のみ)

開校日／平成 28 年 12 月 2 日(金) 6:20PMより
 受付／大場敬子・大橋町代・牛田剛・斉藤昭(後見人)
 24 期通年テーマ：『素朴ともみえるひとつひとつの行動が未来へと広がっていく』
 今回のテーマ：《好きなことって面白い…?》

<時間割>

- 1 時間目 道徳 松田慎也 先生
 「頼まれごとは、試されごと…?」
- 2 時間目 社会 池田タキ江 先生
 「花のあるくらしと…?」
- 3 時間目 理科 星野直樹 先生
 「石に魅せられて…?」
- 給食の時間～年越しお楽しみ料理～

9:30 閉校

のだかたち

■援農のつもりが芋掘り体験かも

9月26日磐田市松之木島の「英ちゃん農園」に、サツマイモ掘りの手伝いに行く。九時に行く、伊藤英雄メダカと石野省三メダカはすでに畑に、二人は鎌で芋ツルを切り落とし、畝を覆っているマルチをはがしていた。石野メダカの手順のいいこと、その馬力も凄く、伊藤メダカがトラクターで畝起こし、バラメダカと石野メダカがサツマイモを掘り出しまとめていく。作業の終わった伊藤メダカとバラメダカがハサミで茎から芋を切り離していくと、石野メダカがコンテナに収めていく。途中知人の斎藤さんも応援に来て、畑に乗り入れた軽トラにコンテナを積み込んで作業は終わる。エツ、私ですか？三人の作業をイテテテと横で見ただけでございます。おなかには皆さんと同じようにすくもので、伊藤メダカの奥さんが用意してくれたおむすび二つと、サンドイッチ一つとギョウザまで食べてしまいました。午後は同じ作業を繰り返す。別の畑にあるシモン芋と紫芋の試掘りもする。まだ少し早いよう。シモン芋は、私が健康のためにジューズにて飲むために分けて頂いた。

この日掘ったサツマイモは、10月1日・2日と、浜松駅前の「ソラモ」での中山間地フェスティバルがあり、石野メダカ会員の「NPOひするしい鎮玉」が、他の品物と一緒に販売。袋井市の山中幸子メダカがシモンユーカーリとレモンガラスのハーブを提供してくれました。これを「香りの花束」としてサツマイモ購入者へブレ

ゼントとして渡したところ大好評！なんと予想に反して二日間で70袋のサツマイモを完売してしまっただって。石野メダカの調子のいいこと、乗せられて買った人が多かったようでございます。(笑)ふかし芋とハーブの香りで至福のひとつときを味わったことと思います。石野メダカさん、いいことをしましたねえ。数日後の10月14日も芋掘りをしました。この時は、服部守孝メダカ、尾上美智子メダカ、夫妻も応援に、大場敬子メダカも親子連れ十人余人で芋掘り体験、榊原淑友メダカも来てくれましたが、紙面の都合で割愛します。それにしても二日間の芋掘り、援農なのか体験なのか、なにはともあれ、いい汗をかかせていただいた、ありがとう。

■磐田市・樹塚の津倉家について

10月は各地で秋祭りが盛んに行われていた。10月15・16日も磐田市(旧竜洋町)樹塚で樹塚祭りが開催された。影の凝った屋台の出そろう華やかな祭りである。

この樹塚祭りの開催に合わせて、地元の廻船問屋「津倉家」が一般公開された。私も昨年からの一般公開に伴い、こちらで邸内の案内係をさせて頂いた。この津倉家は樹塚に5軒あった廻船問屋(大店)の一軒であるが、家長の無くなったのを機に磐田市へ寄贈された建物である。寄贈を決められた「長男の「地元の人々のために使っていたきたい」という意思により、磐田市文化財課の管理下ではあるものの、地元有志が集まり津倉家を定期的に訪れ掃除や草取りなどの手入れを行い、維持管理に努めている。その甲斐もあり、今年是一般公開に先立っての大規模な掃除や庭木の伐採もなく一般公開に望めた。

津倉家は建物自体は明治44年の建築で

あるが、天竜川の水運を利用した材木運搬や製材加工・加工製品の東京への出荷などの商いを手広く行っていた当時を忍ばせる贅沢な材をふんだんに用い、材木間屋のシヨウルームのような作りである。また石炭を使った天然ガスを配管を屋敷に巡らせガス灯を灯すなどの当時としては先端技術の工夫の跡がみえたり、大黒柱の一部を練り抜き大黒様が埋め込まれているなど、遊び心を覗かせる。昭和4年に増設された洋間にもアールデコ調の暖炉や調度品が揃えられ当時は相当ハイカラな建物であったに違いない。公開土日の二日間で延べ500人を超える来場者があったという報告である。

文化財というのは、土蔵の奥深くに仕舞いこんで大切に保管するものではなく、広く一般の目に触れ、人々が郷土の宝として誇りに想える津倉家のような存在を言うのだと思う。(大島たまよメダカ)

■第18回遠州横須賀街道・ちっちゃな文化展

10月21日(金)〜23(日)、城下町遠州横須賀の町なみを会場に、「第18回遠州横須賀街道・ちっちゃな文化展」が開催されました。今回は横須賀のイベントとしては珍しく3日間とも雨の心配がなく、「芸術の秋を楽しむ」大勢のお客様で賑わいました。しかしながら町のキャバが小さいこともあり、お車で来横された方々には駐車場不足で、またシャトルバスも乗れなかった方が出るなど、大変な迷惑をおかけしてしまいました。会場となった横須賀街道も人・人・人で埋まり、そのなかで鈴木眞弓メダカはいつもの古民家でマクラメインタレーションの展示、進化するマクラメはついに家の外まで進出していました。大橋藍舟メダカは清水邸(本宅)の和室で展示、お客様のリクエストに応え「書」のプレゼ

ント、そしてお客様にも大勢のメダカ生が、バラメダカ(夫妻)はじめ石野メダカ、服部メダカ、伊藤メダカ、尾上メダカ、西川メダカなどなど、本当にたくさんメダカの皆さんありがとうございました。(鈴木武史メダカ)

■掛川市の奥座敷眞温泉を「アサギマダラ」の里に

掛川市の倉真温泉を「アサギマダラの里にしよう」と、アサギマダラの好きなフジバカマを2年ほど前から植栽したところ、フジバカマの蜜を求めて今年もアサギマダラがやってきた。多い時は100以上も舞っているという。

アサギマダラは半透明の水色の羽などが特徴の小さな蝶で、5月から6月に北上し、9月から11月には南下する習性を持つており、日本列島を渡り鳥のように移動する。さらには南の沖縄から台湾あたりまで2000キロ以上を飛んでいくという蝶もいる。翌年の春にはその逆コースで戻ってくる。静岡県内でも見たという情報が新聞記事に載っていました。

そのアサギマダラを、「倉真温泉の名物にしよう!!」と自宅で育てた秋の七草の一つ、フジバカマを移植。仕掛け人のお節介やきは掛川市の鳥山剛メダカとか。あなたの庭にもフジバカマを植えてみたら、来年の10月ごろ見られるかも…。

■ステープ・ジョブズに大きな影響を与えた男

第23回の遠州森町祭の町並みと蔵展が11月26日(土)27日(日)に開催されます。今回のテーマはアメリカに禅を広めた男「鈴木俊隆と森の町」として禅にスポットを当てて参ります。鈴木俊隆老師は父祖学(25世)が森町の蔵雲院の住職をしておりました関係で、12歳で蔵雲院(27世)

玉潤祖温老師に弟子入りし駒澤大学に学び卒業後は永平寺・総持寺で修行、この間25歳で藏書院住職に就任します。その後、焼津市の林聖院住職に転住し、55歳で渡米、サンフランシスコ桑港寺住職となり、禅センター設立、カルフォルニア州タサハラに禅心寺設立、68歳禅センターで遷化しました。大師の著書「禪ビギナーズ・マインド」は日本を始め24カ国で翻訳され、禅のバイブルとも呼ばれ、ステーブ・ジョブズなど数多くのアメリカ人に大きな影響を与えました。

今回の講演会は26日(土)午後1時から本町の西光寺、さらに11月20日(土)は午前10時より大洞院で座禅会を行います。また当日は着物の方は人力車にて町並み散策をプレゼントいたします。問合せは090・1472・6189 榊原まで

■しなばた秋 里山コンサート

浜松市天竜区春野町長蔵寺の尾上オーブンガーデンで、現代尺八の演奏者縄巻修己さんを迎えて『2016 しなばた秋 里山コンサート』が11月19日(土)12時から15時までおこなわれます。

演奏者縄巻さんの演奏スタイルは、あらゆるジャンルに及び、独自の世界を築くアーティストで、尺八と秋の里山、素晴らしい景観を醸し出してくれます。また地元若きミュージシャン「ジリリタ」も会を盛りあげます。

会費は3000円(昼食、お土産込み、小学生以下は無料)。昼食は12時から13時、コンサートは13時10分から14時30分、予定。申し込みは、名前・住所・連絡先・参加人数を書いてFAX053・986・0133へ。(問い合わせも同じ)雨天の場合は、長蔵寺にある長命寺になります。(尾上美智子メダカ)

■岡部宿大旅館「柏屋」歴史資料館で「井出孝絵画展」

元SBラジオ「井出孝の土曜はごきげん」のパーソナリティだった故井出孝さんの『第2回井出孝絵画展』が29日1月24日(火)〜2月19日(日)まで、藤枝市岡部817の東海道五十三次岡部宿大旅館「柏屋」歴史資料館で開催される。

井出さんは、めだかの学校の言いだしっぺ故平山豊メダカ、故伊藤茂男メダカ、掛川市の鳥山剛メダカらとも親しかつた人です。初日の1月24日は井出さんの奥さんや平山さんの奥さん、鳥山メダカらがお会いしてめだかの学校の話などで盛り上がるでしょう。ぜひみなさんお出かけを!

『人・ひと・ヒト』だより

●秋田県鹿角市の奈良努メダカ。「めだかの学校はいつまでも続けて欲しい。すくなくとも私が登校するまでは」だって。ご本人はなんでも挑戦のがんばり屋の61歳。所属する市民劇団は25周年、まだ舞台上に立っている。来年のネリンピックでは百人一首に挑戦したい、と。

●岐阜県中津川市の早川裕康メダカ。飛騨美濃伝統野菜の「あじめこしよ」を使い、12年ほど前からシリーズ商品を開発、地域振興に力を注ぐ「カネマス福丸屋」の社長。「とうがらしみそ」「ピリカラ糍」「とんからしらすみそ」「あじこしよ」の七味風味のぼてとちつぷす「など。「とんからしらすみそ」は静岡との縁から、「静岡のしらす」を使用。主力商品の「ピリカラ糍」は年間2万個を生産、販売している、と。

●磐田市の宮澤博行メダカ。この度防衛大臣政務官兼内閣府大臣政務官に就任した、と。多忙を極める。浜松市の城内実メダカは拉致関係の担当に。磐田市の小山展弘メ

ダカは、国会の本会議で質問した、と新聞記事に。そのうち「めだか」から大臣が…。(笑)。めだかの学校は多種多様、まさに「おもしろ人立」でございます。ハイ

●磐田市の松島季美代メダカ。9月は藤枝博物館で紙芝居。10月はクリエイト浜松で宮澤賢治祭で詩の朗読。11月は浜松龍泉寺で満月まつりの語り部、静岡こども病院で紙芝居、茶ピアにて絵本ライブ。毎月第2月曜日は村田徳治メダカ代表の実況「Web TV」の司会進行役。森町の病院付属保育園の園長さん。

●浜松市引佐町の与田新造メダカ。元郵便局長で日本奇術協会公認講師で、今はプロのマジシャン。静岡新聞カルチャーセンター遠鉄校で、10月30日に特別パフォーマンス『Mr.ヨダのマジック五十五連発!』テーブルマジックからステージマジックまで披露、だって。

メダカの学校開校10周年の時、目の前で演じてくれたが全く分からなかった。25周年、開校百回記念の時には、ぜひ公演して欲しいですね。

●浜松市細江町の上嶋裕志メダカ。姫街道の歴史や文化を発信する「姫街道連絡協議会代表。大河ドラマ「おんな城主 直虎」の放送に合わせて、井伊直虎のゆかりの地を巡ってクイズに答える「直虎検定」を行なっている。クイズは百問。井伊家の菩提寺である龍護寺や井伊宮、浜松市などの史跡をおとすれと分かる問題構成。直虎の伯父新野左馬助が治めた御前崎市や直虎の婚約者井伊直親が一時身を隠した長野県高森町の史跡からの出題もある。検定の問題用紙は浜松市北区の田園空間博物館などにある。受験料は1000円。問い合わせは上嶋めだか(053・523・2158)へ。

＜新入生紹介＞

●浜松市の加藤真知子メダカ。軽登山や川遊び、オートバイでのツーリングやサイクリングなど自然が大好きなピチピチガール。めだかの学校の平均年齢をぐんと引き下げてくれました。第九十四回のめだかの学校では、早速三役用務員に抜てき。石野省三メダカ推薦。

●磐田市の大田政樹メダカ。一回会うと知り合いになってしまうという、太田印刷の社長。お客様目線の印刷の提案もします、と。磐田市倫理法人会の会長でもある。

●湖西市の牛田剛メダカ。3年前まではサラリーマンで、スリランカ駐在6年半や17カ国の訪問を経験。14年1月に起業してE・T・Pを設立。どんな会社か聞いてみたら:P(可能性)がいっぱい、とか。日本史や世界史など読破し大好きで、日常英会話、ビジネス英会話もできる。好奇心と挑戦心いっぱい、めだかの学校で「遊び心」を、だって。

もつともつと載せたかったのですが、紙面の都合で今回はこれまで。

※お知らせ
今号は、めだか春秋はお休みとさせていただきます。次号からはリレー型式で。文字数は十八文字×三七行以内。名前・タイトル(見出し)含む。行数以内で写真も可。第九五回のメダカ春秋は、榊原淑友メダカお楽しみに。(事務局 バラメダカ)

トピックス

■奥宮教生メダカ。長年の夢、渾身の語録集『殻を破れ!』を出版

永年の夢
だった『奥宮語録の出版』をこのほど実現した、浜松市浜北区の奥宮教生メダカ。



「視点を変えれば生き方が深くなる」型にはまらぬ視点を、コンサルティングや日常で実証し、言葉紡ぎ、短文で綴ること40有余年。積み上げた語録は五百八十点。その中から百五十前後を選びまとめた本にする。「視点を変えれば生き方が深くなる」まさに『殻を破れ!』である。10月末から書店に上架されている。12月末には第2弾「目の前に扉が開き、人生の起点をみつけれ!よし!ここからだ!」を出版する、と言う。第92回めだかの学校の校長校長訓話でも飛び出した『奥宮語録』この2冊必読ですよ。

定価は1300円十税。本は近くの書店、またはAmazonでもお求めできますが、先ずは発行元の御業務改善コンサルティング奥宮教生事務所 053・583・0628へお電話を!

めだかの学校の皆さん、視点を換えれば新しい生活が見えてくる。『よし!ここから!』ですぞ!。ハイ。(パラメダカ)

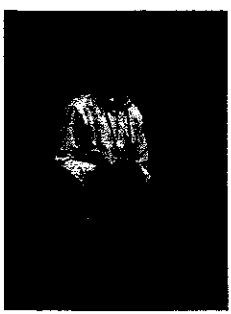
■事務局だより

ある10月の日曜日の昼下がりに。我が家の小さな庭はモグラの縦横無尽に走るトンネルでモコモコ。花根も野菜根も仕切り石もグラグラ。隣人に退治の方法を聞けば「トンネルをつぶすしかない」と言う。「お父さん来て!石の下にシッポが!」ふるえ声。「ミミズじゃないの?」とお小石をあげたら、薄茶色の15cmぐらいのものが、いきなり私に向かってとび出した。尻モチをつきそうになった私の脇を通りすぎて消えた。子どものヘビのようだった。

11月。時は晩秋に、家の周りは柿色に染まって来た。美味しい治郎柿の季節に。初て、「第93回めだかの学校」は、平成28年9月2日。24期最初の開校日。校長水村春江、教頭 高田正人、用務員 中村明男。毎年度最初の授業は、『建学の精神(こころ)』を唱和する。高田教頭、めだかの学校の成り立ちを説明しながら先導。

(※資料は欠席の生徒には94回めだかの便り発送時に同封します)。新入生には加藤真知子(27)、太田政樹(45)、牛田剛(45)の若き新人が入校して平均年齢がぐんと下がる。また西川裕子メダカが再入学。給食は高価なマツタケと栗飯のほか旬がいろいろの旬づくし。

校長訓話の水村春江校長は、自らが携わってきた司会業や結婚紹介など、人との出会いの素晴らしさを熱く語る。事務局からは「出欠席の返事にひと言添えて、それが『めだか便り』に反映される、と。お待ちかねの特別授業は、花井孝先生の社会「地域にあつて地域を生かす花



井流まちおこし。花井先生曰く「地域づくり、まちおこしは人のためだけでなく自分のための自己実現」と。①鈴木武史メダカの若かり頃の話から始まって、旧大須賀町の町づくり、商店街進化のために借金をするな、は街道景観を生かした「ちっちゃな文化展」へつながる。②市民総参加で共感文化の創造を：清水みなと祭り。③「君は太平洋を見たか。僕は日本海を見た」中部横断自動車道は、もうすぐ実現する。④33回目になる三保松原でのフランスフェア、薪能羽衣の上演。⑤総理大臣賞受賞のうだつの上がない町を美濃市の「和紙あかり展」。⑥真っ暗な寸又峡温泉に和紙のあかりイベント。⑦静岡にお茶を伝えた静岡生

聖一國師物語」の日本語、英語、フランス語版を発行など、「まちおこしは、楽しく面白く暮らすための手段だ」と一時間にわたって語る。めだかの学校は、まさに自己実現の場、と。

私語飲全て禁止の次期三役発表は、校長 大久保陽、教頭 西川裕子、用務員 加藤真知子。ペテランの大久保校長、再入学の西川教頭、新入生ピチピチ用務員。楽しみです。最後には、大きな輪をつくって「今日の日はさようなら」を歌いつつ握手してお別れ：閉校。

第94回めだかの学校の職員会議を10月5日(水)学舎で大久保校長、西川教頭、加藤用務員も出席して開く。第94回のテーマは「好きなことって面白い?」に。先生は東・中・西から選ぶ。一時間目、道徳「頼まれことはためされ」として松田慎也先生(掛川市)、二時間目、社会「花ある暮らしと」池田タキ江先生(島田市)。三時間目、理科「石に魅せられて」星野直樹先生(新城市)に決まる。

■第24期の受け付けをしています

第24期は、平成28年9月1日から、29年8月31日までです。毎年度継続手続きが必要です。まだ手続きがなされていない生徒がいます。もう一度対象者に申込書を同封しますが、手続きを済ませないと名簿からはずれて自主退学となります。ご注意ください。新しく入校をされる方がいましたら、事務局までご連絡ください。資料と申込書を送ります。

■今回もめだかの学校だより遅れてごめんなさい

今回もお手伝いいただきました鈴木武史メダカ、伊藤英雄メダカ、石野省三メダカ、田村進治メダカ、大島たまよメダカ、榊原淑友メダカ、まとめてくださる間瀬亮太メダカ、発送などのお手伝いの榊原明美さん、ありがとうございました!

■めだかの学校だよりの原稿を!

今回の発行は、29年2月1日予定。締切りは、1月20日。みなさんの日頃の活動、イベントの開催など、あなたの顔の見える情報をどんどん、手紙でFAXで電話で：待っています。メールの方は、
《nabuchi-trd@yr.tnc.ne.jp》
間瀬亮太090・50099・0986です。
(メールの方は割付の関係もあるので二報を)

■めだかの学校の事務局

〒438・0105 静岡県磐田市家田529番地20 榊原幸雄方 TEL 0539・62・6691 (FAX同じ)
※学舎「一宮総合センター」周智郡森町一宮3150。電話0538・89・7730 開校日の午後4時以降のみ使用可。携帯080・1612・9130

